

アブラハム ③

## □アブラハムの信仰の手本

1. 約束の地を与えるという神の召しに応答して、行先を知らずに、生まれ故郷を離れた
2. 約束の地に入っても、寄留者の立場を甘んじて受けて、忍耐し続けた
3. **子が生まれるという神の約束を、不可能でも信じた**
4. 土地の約束と子の約束は、アブラハムに復活を確信させることになった。アブラハムは、約束の子イサクを捧げることを通して、復活信仰を表明した
5. 目の前の土地ではなく、より優る国、神の都を求めた

## □本日の内容・・・3番目、【子が生まれるという神の約束を、不可能でも信じた】

この経緯の中で、アブラムは、神によって改名されて「アブラハム」となる。

- (1) アブラムは、75歳で約束の地に入り、10年のうちに、家畜と銀と金を非常に豊かに持つようになった（創世記13:2）。しかし、子はない。

## (2) 子が生まれるという約束と信仰義認（創世記15:1~6）

- 1 主のことばが幻のうちにアブラムに臨んだ。「アブラムよ。恐れるな。わたしはあなたの盾である。あなたへの報いは非常に大きい。」
- 2 アブラムは言った。「神、主よ、あなたは私に何を下さるのですか。私は子がないままで死のうとしています。私の家の相続人は、ダマスコのエリエゼルなのでしょうか。」
- 3 さらにアブラムは言った。「ご覧ください。あなたが子孫を私に下さらなかったで、私の家のしもべが私の跡取りになるでしょう。」
- 4 すると見よ、主のことばが彼に臨んだ。「その者があなたの跡を継いではならない。ただ、あなた自身から生まれ出てくる者が、あなたの跡を継がなければならない。」
- 5 そして主は、彼を外に連れ出して言われた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。」さらに言われた。「あなたの子孫は、このようになる。」
- 6 **アブラムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた。**

## (3) 妻サライの常識的対応（創世記16章）

妻サライは自分の女奴隷ハガルを、夫アブラム 85歳に妻として与えた。ハガルはアブラムに男の子を産んだ。アブラム 86歳は、その子をイシュマエルと名づけた。

## (4) イサク誕生の予告1回目と割礼(創世記17章)

それから13年後、アブラム99歳に主が現れ、こう言われた。

「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前に歩み、全き者であれ。わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたの間立てる。わたしは、あなたを大いに増やす。」

そして、アブラム(高められた父)の名を「アブラハム(多くの者たちの父)」とするよう命じ、契約のしるしとして割礼を命じた。そして、妻サライ(私の王女)の名も「サラ(王女)」とするよう命じ、アブラハムにこう仰せられた。

「わたしは彼女を祝福し、彼女によって必ずあなたに男の子を与える。わたしは彼女を祝福する。彼女は国々の母となり、もろもろの民の王たちが彼女から出て来る。」

アブラハムはひれ伏して、笑った。そして心の中で言った。「百歳の者に子が生まれるだろうか。サラにしても、九十歳の女が子を産めるだろうか。」

そして、アブラハムは神に言った。「どうか、イシュマエルが御前で生きていますように。」

神は仰せられた。「いや、あなたの妻サラが、あなたに男の子を産むのだ。あなたはその子をイサクと名づけなさい。わたしは彼と、わたしの契約を立て、それを彼の後の子孫のために永遠の契約とする。イシュマエルについては、あなたの言うことを聞き入れた。必ず、わたしは彼を祝福し、子孫に富ませ、大いに増やす。彼は十二人の族長たちを生む。わたしは彼を大いなる国民とする。しかし、わたしがわたしの契約を立てるのは、サラが来年の今ごろあなたに産むイサクとの間にである。」

神はアブラハムと語り終えると、彼のもとから上って行かれた。そこでアブラハムは、その子イシュマエル、彼の家で生まれたすべてのしもべ、また、金で買い取ったすべての者、すなわち、アブラハムの家のすべての男子を集め、神が彼に告げたとおり、その日のうちに、彼らの包皮の肉を切り捨てた。アブラハムが包皮の肉を切り捨てられたときは、九十九歳であった。

## (5) イサク誕生の予告2回目(創世記18章)

割礼の傷が癒えたころ、主がアブラハムに現れた。主と二人の天使が、あたかも3人の旅人のようにして、アブラハムの天幕の前に向って立った。

彼らはアブラハムに言った。「あなたの妻サラはどこにいますか。」

アブラハムは答えた。「天幕の中におります。」

すると、そのうちの一人が言った。「わたしは来年の今ごろ、必ずあなたのところに

戻って来ます。そのとき、あなたの妻サラには男の子が生まれています。」

サラは、その人のうしろの、天幕の入口で聞いていた。アブラハムとサラは年を重ねて老人になっていて、サラには女の月のものがもう止まっていた。サラは心の中で笑って、こう言った。「年老いてしまったこの私に、何の楽しみがあるでしょう。それに主人も年寄りで。」

主はアブラハムに言われた。「なぜサラは笑って、『私は本当に子を産めるだろうか。こんなに年をとっているのに』と言うのか。主にとって不可能なことがあるだろうか。わたしは来年の今ごろ、定めた時に、あなたのところに戻って来る。そのとき、サラには男の子が生まれている。」

サラは打ち消して言った。「私は笑っていません。」恐ろしかったのである。しかし、主は言われた。「いや、確かにあなたは笑った。」

#### (6) イサクの誕生（創世記 21 章）

主は約束したとおりに、サラをかえりみられた。主は告げたとおりに、サラのために行われた。サラは身ごもり、神がアブラハムに告げられたその時期に、年老いたアブラハムに男の子を産んだ。

アブラハムは、自分に生まれた子、サラが自分に産んだ子をイサクと名づけた。

そしてアブラハムは、神が命じられたとおりに、生後八日になった自分の子イサクに割礼を施した。

アブラハムは、その子イサクが生まれたとき、百歳であった。

サラは言った。「神は私に笑いを下さいました。これを聞く人もみな、私のことで笑うでしょう。」

#### (7) 新約聖書ではイサクの誕生について次のように解説している

ロマ 4：18～22 彼は望み得ない時に望みを抱いて信じ、「あなたの子孫は、このようになる」と言われていたとおりに、多くの国民の父となりました。彼は、およそ百歳になり、自分のからだですでに死んだも同然であること、またサラの胎が死んでいることを認めても、その信仰は弱まりませんでした。不信仰になって神の約束を疑うようなことはなく、かえって信仰が強められて、神に栄光を帰し、神には約束されたことを実行する力がある、と確信していました。だからこそ、「彼には、それが義と認められた」のです。

ヘブル 11：11～12 アブラハムは、すでにその年を過ぎた身であり、サラ自身も不妊の女であったのに、信仰によって、子をもうける力を得ました。彼が、約束してくださった方を真実な方と考えたからです。こういうわけで、一人の、しかも死んだも同然の人から、天の星のように、また海辺の数えきれない砂のように数多くの子孫が生まれたのです。

#### □まとめ

アブラハムは、75歳で約束の地に入り、100歳で約束の子イサクが生まれました。

この25年間、神はアブラハムの信仰を導きました。

85歳を前にして、もう自分の子はもてないとあきらめたアブラムに、神は天の星を見せて、このように子孫が数多くなると言いました。彼は神の約束を信じました。神は、その信仰を彼の義と認めました。

この神の予告を妻サラは夫から聞いて、まさか自分が母親になるとは思いもせず、自分の女奴隷ハガルを夫に与えました。アブラムは、信仰によって子をもうける力を受けました。ハガルはすぐに身ごもり、アブラムは86歳で、待望の男子イシュマエルを得ました。

ところが、神の計画は、不妊の女である妻サラ、それも年老いて、月のものが止まり、胎が死んでいる妻から、子を産ませるというものでした。

99歳のときに、そのことを告げられたアブラムは、神の前にひれ伏しながらも、笑ってしまいました。しかし、さらに神のことばを受けて、彼は信じました。

このとき、アブラム（高められた父）はその名をアブラハム（多くの者たちの父）に、サラ（私の王女）はその名をサラ（王女）へと変えるよう命じられました。

神の約束を信じたアブラハムの信仰により、今度は妻サラに子を設ける力が与えられました。

サラも最初にその約束を聞いたときは、心の中で笑ってしまいました。しかし、神の約束のとおり、その1年後にアブラハムとサラの間に男の子が生まれました。

その子の名は、神があらかじめ命じておられたとおり、イサク（彼は笑う）と名づけられました。アブラハムが笑ったからです。

神は忍耐強く、私たちの信仰を導いてくださいます。どんなに不可能に思えても、神は全能の神であり、約束に真実なお方です。神が約束されたことは必ず成るとの信仰を持つところまで、神は私たちを導いてくださいます。